Sparked by nature

炙(あぶ)りマスターCB

ABURI MASTER

KC-700

取扱説明書

生産物賠償責任保険付

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございました。本製品を安全に正しくお使いいただくためにご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき大切に保管してください。

■製品仕様

外形寸法：長さ132×幅34×高さ66mm
重　　量：約153g(本体のみ)
火 口 径：φ22mm
燃焼時間：約1.5時間 (ST-760　1本使用時)※1
　　　　　約2.0時間 (ST-700　1本使用時)※1
ガス消費量：154g/h (ST-760使用時)※2
　　　　　131g/h (ST-700使用時)※2
発 熱 量：2.1kW (1,820kcal/h) (ST-760使用時)※2
　　　　　1.8kW (1,550kcal/h) (ST-700使用時)※2
火炎温度：最高1,300℃　最低900℃
点火方式：圧電点火方式

※1　30分の連続燃焼データより換算したものです。
※2　10分間の燃焼データを1時間に換算したものです。

転倒防止
スタビライザー付き

スタビライザー使用上の注意　⚠注意

●「炙りマスターCB」を点火する際は垂直に置き、必ず手に持って行ってください。また点火させて加熱作業する際も必ず手に持って行ってください。
●スタビライザーを取り付けて「炙りマスターCB」を置いたまま点火して使用しないでください。
●スタビライザーは「転倒防止」のための製品です。置く場所、状況により転倒する場合がありますので十分注意してください。
●スタビライザーは新富士バーナー製品(カセットガスタイプ)専用です。それ以外には使用しないでください。ねじ込み式ボンベには使用できません。
●取り付けの際は、指を挟まないように注意し、本製品とボンベの間に隙間がなくしっかり取り付けられていることを確認してください。
●熱により変形、破損する場合がありますので注意してください。

目次

◆特に注意していただきたいこと

イラストの横にある ⃠ マークは禁止、❗ マークは強制を表します。

警告（指示に従わない場合は死亡、または重度の障害を負う可能性があります。）

■使用上の注意

●点火時および使用中は、火口を人体に向けたり中をのぞきこんだりしないでください。
●使用中および使用直後は火口、火口付近が熱くなっていますので可燃物を近づけたり手を触れたりしないでください。
●容器(ボンベ)は正しく取り付けてください。容器(ボンベ)の取り付けが不十分だとガス漏れ事故の原因となります。
●生ガス(気化していない白い霧状のガス)に点火すると赤い炎が大きく燃え上がり、やけど、火災の危険があります。生ガスが出たときは一度ハンドルを閉じ、再度ハンドルを開き、生ガスが出ないことを確認してから点火してください。
●炭の火起しにご使用の際は必ず手に持って使用してください。他の物に固定したり、置いたまま使用すると容器(ボンベ)が過熱し非常に危険です。また本体樹脂部が加熱され破損するおそれがあります。火が起きたらすぐに器具を消火し火元から離して置いてください。
●火のついたまま容器(ボンベ)を取り外したり放り投げたりしないでください。やけど、火災の危険があります。

■使用容器（ボンベ）の取扱上の注意

●容器(ボンベ)は新富士バーナー製品専用、SOTO製品専用の容器(ボンベ)(カセットガスタイプ)を必ずご使用ください。
●容器(ボンベ)に表記されている注意事項をよく読んでからご使用ください。
●容器(ボンベ)は火気や直射日光(室内や車内の窓際など)を避け、キャップをして、風通しがよく湿気の少ない40℃以下の場所に保管してください。

●容器(ボンベ)をファンヒーターの前など熱気のある場所で放置しないでください。熱で容器(ボンベ)の圧力が上がり爆発する危険があります。
●容器(ボンベ)を火の中に投入しないでください。爆発して危険です。

●容器(ボンベ)に強い衝撃を与えないでください。
●保管してある容器(ボンベ)は、時々点検してください。錆が発生している場合はできるだけ早くご使用ください。
●使用中は時々正常に燃焼していることを確認してください。

◆特に注意していただきたいこと

イラストの横にある ⃠ マークは禁止を表します。

警告（指示に従わない場合は死亡、または重度の障害を負う可能性があります。）

■使用済み容器（ボンベ）の処理に関する注意

- 容器(ボンベ)を振ってサラサラ音がする場合は、まだガスが残っています。そのまま温度の高い場所に放置したり、火の中に投入すると爆発する危険があります。
- 容器(ボンベ)は完全に使いきってから他のゴミと区別して処分してください。(各自治体の処理方法に従って処分してください。)

注意（指示に従わない場合は軽傷、または他の財物の損傷を引き起こすことになります。）

■取扱上の注意

- 換気の十分な場所で燃えやすい物や熱に弱い物から十分に離れて使用してください。
- 風の強い時は使用しないでください。
- 火災は予期しないことから発生することがあります。
  ご使用の際は、火の元に十分注意してください。
- ハンドルはご使用の時以外は閉じておいてください。
- お子様の手の届かない場所に保管してください。
- お子様には使用させないでください。

■使用容器（ボンベ）

SOTO製品専用容器(ボンベ)
カセットガスタイプ

ST-700

ST-760

ST-700 3本パック

ST-760 3本パック

※容器(ボンベ)は別売です。
別途お買い求めください。

◆日常の点検・手入れ

■点検・手入れの際の注意

- 日常の点検、手入れは必ず行ってください。
- 点検、手入れは必ず容器(ボンベ)を取り外して火口付近が完全に冷めてから行ってください。
- 故障または破損と思われるものは絶対使用しないでください。
- 不完全な修理は危険です。 万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買い求めになった販売店または、当社お客様係フリーダイヤル 0120-75-5000までご相談ください。

◆故障・異常の見分け方と処置方法

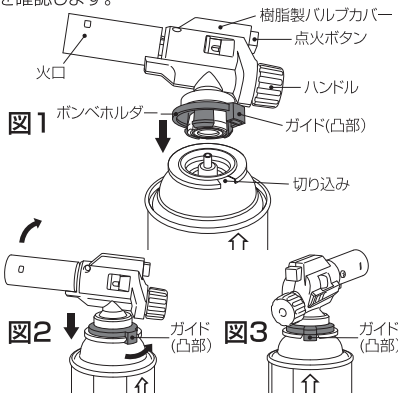
現象 ＼ 原因	火力が弱い	炎の色が赤い	点火しない（ガスは出ている）	ガスが出ない	ガスの臭いがする	炎が吹き切れる	処理方法
ノズルのつまり	○	○		○			点検・修理を依頼する
燃料が残り少ない	○		○				新しい容器（ボンベ）と取り替える
容器(ボンベ)の温度が低い	○		○				容器（ボンベ）を室内に1時間ほど放置する
ガス噴出量が多い			○				ハンドルをOFFの方向に回しガスの噴出量を少なくする
容器(ボンベ)の温度が高い			○			○	ハンドルをOFFの方向に回しガスの噴出量を少なくする
点火装置の故障			○				点検・修理を依頼する
容器(ボンベ)の取り付け不良				○	○		容器（ボンベ）を取扱説明書どおりに取り付ける
ガス噴出量が少ない			○				ハンドルをONの方向に回しガスの噴出量を多くする

製造発売元
新富士バーナー株式会社
愛知県豊川市御津町御幸浜1号地1-3
TEL0533-75-5000(代)　FAX0533-75-5033
http://www.shinfuji.co.jp/　MADE IN JAPAN

◆使用方法

■容器(ボンベ)の取り付け

※容器(ボンベ)の取り付けは、容器(ボンベ)を傾けずに直立状態で取り付けてください。

1. ハンドルをOFFの方向へ回し、完全に閉じていることを確認します。この時、ハンドルを必要以上にきつく締めないでください。
2. ボンベホルダーのガイド(凸部)が所定の位置(左側に止まるまで回した位置)(図1)にあることを確認します。
3. 容器(ボンベ)の切り込み部を、ガイド(凸部)に合わせ(図1)、矢印方向へ押し付けながら本体を右方向に止まるまで約60度回します(図2)。
   ガイド(凸部)が、図3のように本体のまま後ろよりやや右側にある位置が取り付け完了の位置です。

⚠注意
容器(ボンベ)取り付け時の注意

容器(ボンベ)取り付けの際はガイド(凸部)が、所定の位置(左側に止まるまで回した位置)にあることを確認してください。所定の位置以外にあると容器(ボンベ)の取り付けができません。

⚠警告
ガス漏れに注意

ガス漏れに注意してください。容器(ボンベ)取り付け後、容器(ボンベ)のガタつきや、"シュー"というガス漏れの音や、ガスの臭気がしないか確認してください。

■点火

＊点火は生ガス(気化していない白い霧状のガス)が出ないように容器(ボンベ)を水平な場所に置き、直立状態で行ってください。

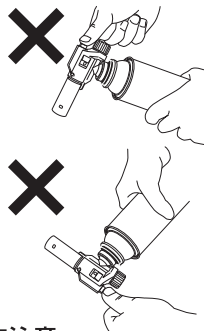
ハンドルをONの方向に回して(約90度回すとガスが出ます)ガスを出して、点火ボタンを"カチッ"というまで押して点火し、青色の炎が出ることを確認します。

点火しない場合は、点火ボタンを繰り返し押します。

＊ガスを出しすぎると点火しにくいので、ガスの量を調整してください。

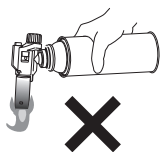
＊生ガスが出たときは点火せず、一度ハンドルをOFFの方向に回し、再度ハンドルをONの方向に回して生ガスが出ないことを確認してから点火してください。

⚠警告
傾けて点火しない!

点火は生ガス(気化していない白い霧状のガス)が出ないように容器(ボンベ)を水平な場所に置き、直立状態で行ってください。本体を傾けた状態で点火すると生ガスが大きく燃え上がり危険です。

生ガスに注意

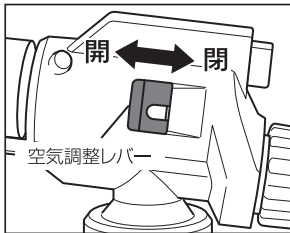
生ガスに点火すると赤い炎が大きく燃え上がり危険です。

⚠警告
真下に向けて連続使用しない

火口を真下に向けて3分以上の連続使用をしないでください。火口からの火炎や熱気が本体にかかり、破損するおそれがあります。

■火力調整、空気調整

1.火力の調整は炎を確認しながらハンドルで調整します。
2.空気調整レバーをスライドさせることにより空気の流入量を調整し、火炎の温度が調整できます。使用目的に合わせて調整します。

※空気調整レバーの位置が左側にある時が空気孔が全開の状態です。青い高温の集中炎になります。空気調整レバーの位置が右側にある時が空気孔が全閉の状態です。柔らかな火炎になります。

※空気孔を閉じた状態で点火ボタンを押すと自動的に空気孔が開く構造になっています。

⚠警告

空気孔を閉じた状態での注意

空気孔を閉じた状態で継続使用すると、逆さ使用をした際に生ガスが出て赤い炎が大きく燃え上がり危険です。その際は直立状態にして、空気孔を全開にしてください。しばらくすると正常な青色の炎になります。

■消火

ハンドルをOFFの方向へ止まるまで回し閉じます。完全に消火したことを確認して作業を終了します。容器(ボンベ)を取り付け時と逆の手順で取り外します。

⚠注意

やけどに注意

使用中および使用直後は火口、火口付近が熱くなっていますので手を触れたりしないでください。

■保管

＊容器(ボンベ)は必ず外してから保管してください。

長期間使用しない場合は、湿気のない場所に箱または袋に入れて保管してください。そのまま放置すると虫や、ほこり等がガス通路に入り込み異常燃焼や着火不良の原因になります。

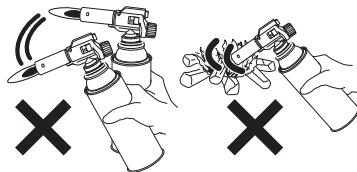
⚠警告

生ガスに注意

使い始めの容器(ボンベ)を使用する時や35℃以上の高温時には生ガス(気化していない白い霧状のガス)が出やすくなり、生ガスに点火すると赤い炎が大きく燃え上がり危険です。その際は火のついたまま容器(ボンベ)を垂直に置き、生ガスが出なくなるまで数秒間燃焼させてから使用してください。

⚠警告

容器(ボンベ)の外れに注意!!

燃焼中に、本体を激しく振ったり、落下させたり、炭の火起しの際に火口先端で炭を動かしたりしないでください。ボンベホルダーが回転し容器(ボンベ)が外れるおそれがあり大変危険です。

激しく振らない!

火口で炭に触れない!

■点検方法

＊バルブ内にOリング(リング状の黒いゴム)が2つ入っているか確認する。
＊点火ボタンを押したとき、火口の中で青い火花が飛ぶか確認する。
＊本体に汚れが目立つ場合には、乾燥した布等で拭き取ってください。